

今、私は広島で弁護士をしています。広島生活も弁護士歴も12年目です。

29歳のとき、「弁護士になろう」と思い立ったのが始まりですが、原点はオーストラリアにあるかも知れません。いつかた、オーストラリアに長期滞在したいと夢みて英語の勉強を続けていますが、今は弁護士としてオージーやオーストラリアに関わる人達のために力を尽くしたいと思っています。



会報

No. 44

2020年5月

ひろしま 日豪協会



HIROSHIMA JAPAN AUSTRALIA SOCIETY

REPORT

オーストラリア森林火災 会員・協会から被災者に義援金 10万円

2019年9月から2020年3月にかけて発生したオーストラリアの森林火災。1月の「オーストラリア・デーを祝う会」で永野会長が参加者に募金を呼び掛けたところ、会員の皆様から7万円の善意が寄せられました。当協会からの3万円と合わせて計10万円(1,357豪ドル)をオーストラリア赤十字に送金しました。

先日、オーストラリア赤十字から次のようなお礼状が届きました。

「オーストラリア赤十字への温かい支援に大変感謝しています。皆様からの寄付金は、オーストラリア全土の多くの被災者の救援に役立てられます。私たちの仕事は、生命を救い、苦痛を和らげ、危機や貧困、喪失に直面した人間の尊厳を守ることです。より安全で平和なオーストラリアという私たちのビジョンに参画してくれたことに感謝します。オーストラリア赤十字 CEO ジュディ・スレイティア」

森林火災からの復興はこれからです。会員の皆様の息の長いご支援をお願いします。(事務局)



編集後記

青春時代をオーストラリアで過ごされた原さんと清川さんから寄稿いただきました。新型コロナウイルスによって世界が分断されている今だからこそ、お二人の文章が心に染みます。抜けるような青空と風にもそよぐユーカリの樹、そしてフレンドリーな人々たち…。オーストラリアと行き来できる日が1日も早く戻ってくるようお願いやみません。

(事務局長 平岡 真)

オーストラリアの情報 募集中!

日豪の交流に関するニュース、オーストラリアへの旅行記などを募集しています。身近な情報をお寄せください。

会報ひろしま日豪協会

発行日 2020年5月

発行所 広島日豪協会

〒734-8585 広島市南区出汐2-3-19 ㈱テレビ新広島 総務部内

☎082-256-2200 FAX 082-253-1203 Eメール nichigo@tss-tv.co.jp

2020年
1月31日

「森林火災 被災者への支援を呼びかけ」 オーストラリア・デーを祝う会 開催

2020年1月31日、「オーストラリア・デーを祝う会」がANAクラウンプラザホテル広島で開催されました。「オーストラリア・デー」は1788年1月26日にイギリスの移民船がシドニーに到着した日にちなんでオーストラリアの建国記念日です。冒頭の挨拶で広島日豪協会の永野正雄会長は、中国で感染が広がっている新型コロナウイルスに対して強い懸念を示したあと、オーストラリア全土で猛威を振るっている森林火災について言及しました。オーストラリアでは5,900棟以上の住宅が焼失するなど、これまでにない甚大な被害が出ています。永野会長は現地の被災者への募金を呼びかけるとともに、当協会から3万円を寄付することを提案し、満場一致で承認されました。



続して挨拶に立った大阪オーストラリア総領事館のデイビッド・ローソン総領事は、森林火災への日本の支援や当協会の協力に感謝の言葉を述べ、日豪両国民が助け合いながら生きていることに乾杯しました。

乾杯のビールは、クーパーズ。手で開栓する前にピンを逆さにして沈殿した酵母を混ぜる「儀式」は豪州らしいユニークなものでした。さらにオーストラリア・ムードを高めてくれたのが、原めぐみ総支配人が監修したオーストラリア料理の数々です。オージービーフ、タスマニア・サーモン、ミートパイ等々。20代の頃タスマニアのホテルで働いていた原さんの解説を聞きながら、参加者はゆったりとくまぐま料理を楽しんでいました。

音楽ゲストは、広島アクターズスクール出身の姉妹デュオ「メビウス」です。心温まるバラードやカーブ菊池選手の登場曲など、会場は、二人の明るくさわやかなハーモニーに包まれていました。



恒例のお楽しみ抽選会も、各企業や会員の皆様からたくさんのお賞品が寄せられ、大いに盛り上がりました。

そして中締めは、平野正樹副会長。家族そろってオーストラリアの大ファンだという平野副会長は経済産業省時代に日豪のEPA(経済連携協定)交渉に携わっていたというエピソードを紹介し、豪州と日本の絆がますます強くなることを祈念して乾杯し会を締めくくりました。



先日オーストラリア・デーを祝う会にてオーストラリアの名物料理を紹介しながら懐かしい食にまつわる話をさせていただいたところ、この度、外国のように原稿を書かせていただく機会をいただくことになりました。

20歳の時にタスマニア州ホバートのホテルで働き始めたのですが、最初は研修生バッジをつけて客室清掃のトレーニングから始めました。ハウスキーピングの年配の女性たち(愛情を込めて「おばさん」と呼ばせていただきます。)が「あれを持っていきなさい!」「これをやるというわよ!」とたくさん世話を焼いてくれるのですが、ご存じの通りオーストラリアの「a」のアクセントは「エイ」ではなく「アイ」なので最初はなかなか理解できず「Pardon me?」の繰り返しでした。今考えると、おばさんたちは辛抱強く私に教えてくれたり、と感謝せずにはいられません。



ハウスキーピングで1か月研修した後、2か月目にレストランに異動になりました。そこでは夫婦とも同じレストランでパートタイマーとして働いている人たちがいました。二人でシフトをやりくりして旦那さんも幼稚園の送り迎えや家事をしていて、他にも多くのカップルが同じように子育てを共有しており、日本も将来こんな風になるのだろうか、と思いました。実際には日本はまだまだ子育てへの男性の参加の時間はオーストラリアより大幅に少ないのですがこれについてはぜひオーストラリアの文化を参考にしてみてはいかがでしょうか。

このようなオーストラリアでの生活や仕事の経験が、今の仕事に大きな影響を与えています。ANAクラウンプラザホテル広島地域本部はシドニーにあり、オーストラリア人の同僚や上司と日常的にやり取りをしています。オーストラリアは第二の故郷のような感覚なので、いつも親しみを感ずるのですが、それと同時に自国の自然や資源を守り、オーストラリアとしての文化の醸成のためにレガシーを大事にしている取り組みを見るときに尊敬の念を感じずにはいられません。

こうした文化の良い部分をご近所の国の人間として学ばせてもらい、そして日本で活かすことができればいつも考えます。

現在コロナウィルス禍で国を超えた移動が制限されていますが、落ち着いたらぜひまたオーストラリアに行って大自然と美味しいワインと料理を楽しみたい、と思います。



欧州の雰囲気が漂う
タスマニア・ホバート



ANAクラウンプラザホテル広島 総支配人 原めぐみ

さて、ホテルで働き始めた中で一番の驚きは1日に3回もティertimeがあることでした。8時30分始業で朝の「ティー」が10時にあり、ランチの「ティー」が12時にあり、午後の「ティー」が14時30分にあることでした。おばさんたちは「Shall we have a tea?」と時間になると声をかけあってキャンティーンに行くのですがそこにはいつでも紅茶が用意しており、スコーンやミートパイも自由に取ることができて、イギリスの文化が受け継がれていることをとても強く感じました。



豪州奥古のビール醸造所で友人と
(カスケード・ヴァルレー)

大学の最終学年時に就職活動がうまくいかず、自分の将来を描けなかった私は、ワーキングホリデー(ワーホリ)を利用してオーストラリアに行きました。ワーホリは外国に1年間滞在でき(当時)、その間に働いて、旅もできるビザです。決断したのは23歳のときでした。今から20年以上前のことです。

最初はシドニーに行き、ユースホステルやバックパッカーホテルにステイしながら、タウンホールの近くのフードコートにある日本料理店で弁当を配達する仕事をしました。シドニーの街中を車で走るのはとてもエキサイティングで、楽しかったです。ドクトリ部屋で様々な国からきたバックパッカーやワーホリ仲間と出会いました。言葉が十分に通じなくても心を通じ合える出会いがありました。その感覚は今でも自分の中に実感として残っています。

オーストラリアで何かを達成したい、オーストラリアの文化や人の中に入り飛び込みたいと思っていた私は、シドニーに3か月程滞在した後にゴールドコーストに行きました。学生時代にライフセービングの世界を知り、本場オーストラリアのサーフ・ライフセービングにチャレンジしたいと思っていたのです。



ゴールドコーストのビーチで仲間と

果敢に立ち向かった自分の行動力は我ながら感服します。あの時のチャレンジ精神を忘れることなく、今も困難なことに怯まず立ち向かおうと思っています。

オーストラリア滞在中の主な拠点は、シドニー、ゴールドコースト、マウント・ブラーでしたが、その間にバックパックを背負って1人旅をしました。

バスで移動し、窓から見えるオーストラリアの景色を楽しみつつ旅しました。きれいな海岸線を走ったり、大地を走るカンガルーを見たり、街並みを通り抜けたら、景色の変化を楽しみました。1人でいると、声をかけてもらったり、一緒に行動をしたり、飲みに行ったりと、世界中のいろいろな人たちと出会い、共に時間を過ごしました。

海や自然が大好きな私にとって、自然豊かなオーストラリアは理想の国でした。楽しいことも辛いこともありましたが、フレンドリーで大きな国民性も自分に合っていました。

そして、多様性に溢れ、青い空、美しい海や自然に囲まれたオーストラリアで、自分自身の将来と向き合いつつ過ごした1年は、私の人生に想像を超える豊かさを与え、発想の枠を大きく広げられました。



ファームステイ先で

ゴールドコーストでは、同じ志を持った日本人の仲間と出会い、サーフ・ライフセービングクラブに入り、ライフセーバーの資格を取ることができました。無謀にもオーストラリアの荒波に



滑川さん(左下)らが
ライフセービング資格を取得
したことを伝える地元新聞記事